

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・「いきよう」・・・安全・安心な教育環境を基盤に、児童生徒一人ひとりの命と人権を守る学校
- ・「のびよう」・・・児童生徒の知識の深化・技能の向上及び協働する心を育て、自立を支援する学校
- ・「てをつなごう」・・・南河内の歴史と文化に触れ、地域の人々とともに共生する学校

2 中期的目標

1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進

- (1) 一人ひとりの人権を尊重し、多様性を認め合い、安全・安心な学校づくりに向けた組織運営や環境の充実を図る。
- (2) 学校外の専門人材や関係諸機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの課題に対応できる取組みを図る。
- (3) 防災・防犯意識を高め、迅速な危機管理対応ができるような取組みを図る。
- (4) 学校ホームページにおける情報発信のさらなる充実を図る。
＊学校教育自己診断（保護者）の HP に関する項目の肯定的意見を令和 9 年度までに 95％を維持する。(R4 84％ R5 82％ R6 95％)

2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育むキャリア教育の実践

- (1) 児童生徒の個に応じた支援・指導を行うために、研修や OJT を通した教員のアセスメント力を高める取組みを図る。
- (2) 「キャリア教育の視点から考える授業づくり」に向けた授業のあり方を追求し、積極的な授業改善や ICT 機器の活用を通した教育の充実を図る。
- (3) 卒業後を見据えた「生きる力」を育むために、小・中・高が連携し、一貫したキャリア教育の推進を図る。
＊学校教育自己診断（保護者）の「将来の希望や職業などについて適切な指導」項目の肯定的意見を令和 9 年度までに 95％とする。(R4 87％ R5 90％ R6 92％)

3 南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化

- (1) 南河内地域における特別支援教育の力量向上のため、関係機関と連携し、特別支援教育のセンター校としての役割をさらに充実する。
- (2) 地元住民や地元企業との連携を深め、防災をはじめとした協働での取組みを充実する。
- (3) ボッチャクラブの活動を通して、障がい者スポーツへの理解・関心を高める。

4 「働き方改革」の推進

- (1) 学校教育活動全般を通して、業務の精選や業務の効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○保護者・教職員対象に実施 項目数：31（保護者）33（教職員） 選択肢：(A あてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない) で実施。A+B で肯定的意見とする。 回答率：保護者 78.7％（昨年度 88.0％ 一昨年度 74.6％）、教職員 100％（昨年度 96.9％ 一昨年度 92.2％）であった。保護者の回答率が昨年比 9.3 ポイント下がったが、過去 10 年間では 50％台であったことを考えると、ここ数年は 70％台後半の回答数で推移している。今後も回答方法を WEB 回答と紙ベースでの回答の併用で実施し、安心メール等での呼びかけや PTA による周知協力を行っていきたい。 まず、項目全般にわたって、31 項目中 28 項目が 90％以上の肯定的意見（全項目の 90％）であり、昨年度の 93％から 3 ポイント下がった。また、教職員アンケートのそれは 33 項目（昨年度 31 項目）中 27 項目、81％（昨年度：22 項目、71％）と 10 ポイント増加した。 【学習指導・学校に関する項目】 ・「お子さんの様子から、学校へ行くことを楽しみにしていると感じられる」「お子さんは、授業がわかりやすく楽しいと感じている」に関して、肯定的意見はそれぞれ 97％、98％（昨年度 98％、97％）とそれぞれ 95％以上の高評価を維持している。 ・「お子さんの日常生活について学校との意思疎通は十分できている」は 96％（昨年度 98％、一昨年度 98％）と 2 ポイント下がったが、学校に対する信頼感と期待感の高い評価で維持されている。 ・「学校は肢体不自由児教育の専門性を備えている」は 96％（昨年度 95％）とあまり変化はないが、教職員アンケートの結果をみると、94％（昨年度 78％）と 16 ポイントも増加しており、非常に大きな伸びを示している。このことは、毎年の人事異動による肢体不自由校未経験者が多い年と少ない年にも左右されるので一概にはいえないが、指導教諭を中心とした研修や、外部人材の専門家による巡回相談・指導の充実による一定の成果と考えられる。 【進路指導・キャリア教育に関する項目】 ・「学校は、小学部から発達段階に応じた生きる力をつける教育（キャリア教育）の推進ができている」に関しては 100％（昨年度 97％）となった。 ・「学校は将来の希望や職業などについて適切な指導を行っている」は 85％（昨年度 94％）と 9 ポイント大きく下落した。これは今年度の全回答率の内、小学部保護者の回答率が相対的に高くなったことによる結果であると考えらる。また、教職員質問項目に「あなたは『キャリア教育全体計	第 1 回（令和 7 年 7 月 17 日（木）実施） 内容：令和 7 年度「学校経営計画」令和 6 年度進路状況 令和 7 年度教科書選定、全肢 P 連大阪大会、防災デイキャンプについて協議・報告を行う。 〈意見等〉 1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進について ・保護者参加の具体的な研修とは。 ⇒卒業生の進路についての勉強会、卒業後のお金に関する勉強会、医療的ケアについての交流会を予定している。 2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践について ・キャリア教育の計画を個別の指導計画にどのように反映していくのか。 ⇒キャリア教育全体計画を参照し、キャリア教育の視点で捉えた記述を意識できるようにしていく。 4 働き方改革の推進について ・働き方改革の一番の課題は何か。 ⇒軸になる教員の負担をどう分担していくか。 第 2 回（令和 7 年 12 月 10 日（水）実施） 内容：令和 7 年度「学校経営計画」進捗状況 令和 7 年度進路状況 授業アンケート、防災デイキャンプについて協議・報告を行う。 〈意見等〉 2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践について ・新転任研修で大切にしているところを教えてください。 ⇒知識面の向上だけでなく、体験を踏まえた研修内容。事例等も取り入れている。 3 南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化について ・地域からの相談にはどのように対応しているのか。 ⇒リーディング、首席、指導教諭により巡回相談、研修会開催、発達検査をしている。まだ行ったことのない学校もあり、児童生徒の相談で困っているところもあるはず。 ・地域との連携で、毎月打ち合わせをし、ボランティアは、草刈り等をはじめできる範囲で協力させてもらっている。友好的な関係を今後も続けていきたい。 第 3 回（令和 7 年 3 月 4 日（水）実施） 内容：令和 7 年度「学校経営計画（評価）」令和 8 年度「学校経営計画（計画）」について学校教育自己診断アンケート結果について協議・報告を行う。 〈意見等〉 1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進について ・学校教育自己診断アンケート結果は施設改修の要望の根拠として使えるのでは ・いじめ防止研修を人権研修の内容としてはどうか ⇒その方向性で考えている。 3 南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化について ・地域としても学校ボランティアを手伝っており、また災害時における指定避難所として学校と連携を行っており、今後も連携を深めたい。

府立藤井寺支援学校

	(5) 学校ホームページの充実	②大阪母子医療センターとの連携で、防災キャンプを実施する (5) ・学校ブログの積極的更新をはじめ、PTA とも連携しながら内容の充実を図る	的意見 95%以上[94%] ②年 1 回 2 学期に実施[新規] (5) 学校教育自己診断における「HP を見たことがある」の項目についての肯定的意見 95%以上を維持[95%]	②大阪母子医療センター内にある大阪府医療的ケア児支援センターとの連携により防災デイキャンプを実施（9月）。藤井寺市危機管理室や自衛隊大阪地方協力隊阪南地区隊の協力を得た。(◎) (5) 学校ブログの更新 147 件[156 件]および PTA との連携による PTA ブログや給食ブログの充実や周知を行い、魅力ある HP 作りに取り組んだ。学校教育自己診断アンケート保護者結果は 93%であった。(○)
2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践	(1) 肢体不自由児教育の専門性を高め、授業力向上のための校内体制の充実 (2) 「生きる力を育むキャリア教育」の観点から授業改善を進める (3) 小中高の連携によるキャリア教育の推進	(1) ①指導教諭を中心として、新転任者研修の他に、肢体不自由児教育の専門性を高める研修や指導を行う ②自立活動通信の発行 (2) ①校内授業研究（JSS）におけるオーダーを、キャリア教育全体計画の項目に分類しながら進め、授業改善につなげる。 ②キャリア教育全体計画に基づいた個別の指導計画の作成 (3) ①キャリア教育に関する研修を行う ②各学部、学校間交流を促進する	(1) ①研修・自立活動相談に対する指導を含めて 16 回以上、また研修後のアンケートの理解度 100%を維持 ②年 6 回以上[10 回] (2) ①小学部 15 回[16 回]、中学部 3 回[3 回]高等部 5 回[8 回]を維持する。 学校教育自己診断（保護者）における「学校は、小学部から発達段階に応じた生きる力をつける教育(キャリア教育) の推進ができている」の項目について 95%以上[新規] ②学校教育自己診断（教職員）における「あなたは、キャリア教育全体計画を踏まえた授業づくりや教育活動に取り組んでいる」の項目について 90%以上[新規] (3) ①年 1 回 ②学校教育自己診断において「学校は、地域の学校との『交流及び共同学習』を積極的に行っている」の項目について肯定的意見 95%以上を維持[96%]	(1) ①指導教諭による肢体不自由校初任者を対象に、肢体不自由児教育の専門性を高める研修を 16 回実施、また 2 学期以降勤務の教員に対しても、専門性向上研修を実施した。すべての研修における研修後アンケートの理解度は 100%であった。(○) ②指導教諭と自立活動支援部との連携により年 10 回発行 (○) (2) ①JSS については、小学部 11 回、中学部 3 回、高等部 4 回実施。今年度より、キャリア教育の視点からの授業改善をテーマにしており、キャリアの視点を意識した授業づくりにつながっている。学校教育自己診断保護者アンケート結果は 100%であった。(○) ②キャリア教育の視点を意識した個別の指導計画への記述と授業づくりを周知、実践した。小中高のタテの繋がりが意識できるようになってきた。学校教育自己診断教職員アンケート結果は 94%であった。(○) (3) ①昨年度に完成したキャリア教育全体計画に基づいた教育実践を推進するために、大学教授によるキャリア教育研修を 2 月に実施。 ②学校間交流（直接交流）については、積極的に展開できた。小学部（藤井寺小学校 4 回、柏原小学校 2 回）中学部（道明寺中学校 1 回、堅下南中学校 1 回）高等部（藤井寺高校 4 回）実施。学校教育自己診断保護者アンケート結果 96% (○)
3 南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化	(1) 地域支援のセンター的機能をさらに高め、地域支援を積極的に行う (2) 地元住民や地元企業との連携を深め、協働した取組みを行う	(1) ①リーディングスタッフを中心としたチームによる巡回相談等の地域支援活動を積極的に行う ②指導教諭との連携による地域支援の充実 (2) ①防災研修（公開）に川北地区住民や地元企業に参加していただく ②地域資源や学校ボランティアと連携した活動を推進 ③防災をはじめ、地域との連携を深めるために定期的な意見交換を行う	(1) ①巡回教育相談、教職員対象研修など 25 件以上[31 件] ②地域校への巡回相談 3 件以上[3 件] (2) ①防災研修（公開）への参加件数 2 件以上[2 件] ②13 件以上を維持[13 件]	(1) ①リーディングスタッフ、指導教諭、首席が協働した地域支援の展開ができた。巡回教育相談 31 件（藤井寺市、大阪狭山市、富田林市の小中学校）、南肢研修や富田林市新任支援学校見学会開催など、センター的機能への需要が高まっている。(◎) ②指導教諭の研修講師としては、大阪狭山市通級担当夏季研修、太子町、河南町、千早赤坂村支援担当研修会、富田林市支援担当研修会、藤井寺市 LT 研修等計 6 回、また巡回相談は松原市立三宅小、道明寺南小の計 2 回実施した。(◎) (2) ①防災訓練（7 月）および防災研修（7 月）に参加していただいた（府立支援学校、地域中学校）。2 件(○) ②今年度は地域（川北地区）の祭礼や行事に参加した。また地域住民ボランティア活動（絵本の読み聞かせ 7 回、体育大会 3 回、校内草刈り 1 回、文化祭 2 回、作品展 1 回、卒業式 2 回）の提供をいただいた。また、昨年度に続き、サカイ引越センターの新入社員研修として年 9 回のボランティアをしていただいた。(◎)

府立藤井寺支援学校

	(3) 障がい者スポーツの普及・啓発	(3) ボッチャ競技を通した児童生徒の育成と地域への普及	③ 2 カ月に 1 回開催 (3) ①ボッチャ甲子園等外部競技大会に参加 ②出前授業、交流行事等を促進3 件以上維持[5 件]	③川北地区区長との意見交換を、毎月 1 回(定例) および学校運営協議会時に実施(7 月、12 月、3 月)(○) (3) ①ボッチャ PT の教員が課外クラブ顧問として指導した。ボッチャ甲子園予選出場(6 月) ②大阪ボッチャ大会(11 月) 光陽支援学校こうやんカップ(12 月)、フェニックス杯(1 月) に参加。また福祉事業所との交流戦(6 月)、OB 交流戦(2 月) を実施した。(◎) 出前授業については、ボッチャ PT の教員を中心に派遣した。高鷲中学校、河原城中学校、誉田中学校で実施した。8 件(◎)
4 「働き方改革」の推進	(1) 業務の精選、効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る	(1) ①一斉定時退庁日を週 1 回設定する。 ②分掌業務の精選、学校行事の見直し(行事の開催方法や日程の変更等)、一斉 1 便下校(学期に 1 回)の実施により、教職員研修を充実させながら、時間外勤務時間の縮減を図る。	(1) ①時間外勤務時間月 45 時間以上を 0 人 ②学校教育自己診断における「働き方改革」に関する項目「学校は、働き方改革に関する取り組みを積極的に行っている」での教職員の肯定的意見 86%以上	(1) ①一斉定時退庁日(毎週水曜日)の徹底を行い、昨年度に引き続き終業 10 分前に音楽放送(七つの子)で教職員の自律的な意識を高めた。時間外勤務時間については、45 時間以上月平均 1.25 人(4 月～12 月のべ人数 8 人)[平均 4.4 人 のべ人数 35 人](○) ②今年度は学期に 1 回計 3 回の一斉下校日および夏季休業中(7 月)の登校日を廃止し、教職員研修を下校後の時間に組み入れた。その結果、時短勤務教職員の参加が容易になり、研修参加者が 80%を超えるなど、研修を受講する機会が確保できた。教職員の肯定的意見は 81%と 5 ポイント下がった。(○)